



国際医療支援団体・認定NPO法人

Future Code



2024.4-2025.3

活動報告書



Bangladesh

2024年06月

バングラデシュ首都郊外で、毎月開催している住民へ無料診察を開催しています。定期的に開催することで、住民への認知度も広がってきました。それに加えて、医療施設へのアクセスが悪いこの地域に建設している小さな医療施設の（クリニックと薬局）建設も進んでおり、オープン後は診察もここでいい、首都ダカの医療機関との連携を行っていく予定です。

これからの計画として、より良い医療の提供のみならず、地域に歓迎される住民の健康に寄与するサービスを農場からも複合的に提供していく予定です。



バングラデシュ首都での新たな医療施設についても現地政府機関と設立の交渉を進めています。これからのバングラデシュでさらに必要と予想されるがん治療をはじめ、貧困に対する支援についても推進する、私たちの新たな医療拠点とする予定であり、日本からの後方支援も頂きながら、今後も現地と連携して進めていきます。一部のシステムには、効率的な現地貢献のため、この国だからこそ可能となる独創的、革新的なアイデアも盛り込むつもりです。

2024年07月

バングラデシュでは現在、連日の大雨によって首都ダカでも道路の冠水が起り、我々の活動地でも農場が被害を受けました。そのような中ですが、なんとか住民無料健康相談は今月も継続することができています。今回は処方された薬の飲み方と副作用のことや、生活習慣としての食事のこと、または子どもの成長についてのことなど、普段の生活の中にある質問や相談が多くありました。

そしてこの診療所の開設も、この水害なども影響し、建設が止まり遅れていましたが、ようやく再開の目処もつき、進み始めました。住民の理解と協力を得ながら、共により良いものを創っていきたいと思います。



2024年11月

バングラデシュの首都郊外で、レストランの一面を借りて住民への無料診察を行いました。この国の政変もあったため、3ヶ月ぶりの実施となりました。頭痛や腰痛といったよくある症状の方々には検査のデータを改めてチェックし、その上で日常生活へのアドバイスなども行います。また今回は肩の脱臼を起こした患者もおり、一旦この場で整復し、詳細を知るため更なる検査に行ってもらいました。

住民からは、より定期的な診療の場を作って欲しいとの要望もあり、諸事情で遅れていたクリニックのオープンを進めています。一つ一つを確実に前に進め、この地域の発展により貢献していけるように努力を続けたいと思います。



バングラデシュの首都での新たな総合病院建設につき、バングラデシュ政府と合意に達し、土地の譲渡およびプロジェクト開始が決定されました！

このプロジェクトは、私たち Future Code が主権を持ちつつ、バングラデシュ保健省と協力しながら、専門的な癌治療をはじめとする、今そしてこれから現地に必要とされる医療だけでなく、貧困層に対する医療の提供をシステムとして併せ持ち、看護教育まで担当するものです。

計画には、日本の医療の清潔さや患者の細かな治療管理システムなど、日本の良い部分を導入しつつ、バングラデシュだからこそできるような革新的なアイデアが随所に詰め込まれています。



約8年に渡る長い交渉を政府と続けて来ましたが、これでようやくスタートを切る事ができました。

現地スタッフも、ここから私たち自身がこの国の医療を変え、新たなステージに押し上げるのだ、という気概と希望を持ち、一丸となって臨んでいます。ここは始まりに過ぎない。

しかしながら、やっと始める事ができます。

私たちとしても、バングラデシュの期待に応え、確かな医療を提供する医療機関となるよう、これからも気を引き締めてこのプロジェクトに臨みます。

2025年01月

バングラデシュの首都郊外、ショラの農場そばに建設しているクリニックとその関連施設は間も無く完成を迎えます。この地域では近郊に医療施設がなかったことから、住民たちの希望もあり、この建設が始まりました（UHC）。またこの施設では宿泊施設や、私たちの農場から取れる野菜や肉などで食事もできるウッドデッキなどもあり、医療だけではなく地域の人々が集える複合施設となっており、地域のコミュニティーの場としても機能していく予定です。



このクリニックでも血液検査などは可能ですが、首都の FutureCode 新総合病院が完成するまでは、必要な画像検査なども首都の軍病院と連携する事が決まっております。医療施設としての機能も充実させていきます。

2025年も日本、そして世界で人道支援を拡大継続して参ります。皆様、本年もどうぞよろしくお願いいたします！



2025年02月

バングラデシュの首都郊外の街に建設された診療施設と宿泊施設が完成しました。この場所では農場や牧場もあり、ここでこだわって作っている食材を提供するカフェテラスなども今後併設され、入院患者さんだけでなく一般の方にも利用していただく予定です。この複合施設は、医療だけでなく、街のコミュニティー形成の場所としても機能していけばと考えています。

医療施設は今月からオープン予定。ある程度の検査も可能であり、また首都にある総合病院とも連携。男性医師、女性医師も勤務し、女性医師は産婦人科、婦人科を担当。もともと医療施設が少ない街であったため、地域の人々からの期待もあり、しっかりとそれに応えていけるように努力して参ります。



バングラデシュの首都にあるキングストン病院で、私たちが過去に行った看護師育成プロジェクトのフォローを行っています。この病院での各種のがん患者さんたちの、抗がん剤治療をメインで視察しています。治療内容や手順、点滴の手技なども確認。院内の衛生度も保たれています。

今後も医師、看護師とのコミュニケーションを定期的にとり、これからに活かしていきたいよう、私たちとしてもこの病院の医療に貢献したいと思います。



バングラデシュ首都郊外にある、私たちの農場に建設していた診療所や宿泊棟、管理施設など全て間もなくオープンします。医療資材などが先に搬入されつつあり、まずは最もニーズが高い、診療所が近日中にオープン予定となっています。一般内科、産婦人科、小児科などを担う予定であり、首都の病院（CMH）と連携しつつ、住民の期待に応え、この地域の発展に貢献したいと思います。

バングラデシュの首都郊外のショラの街に建設していた診療所がオープンしました！まだ全ての医療資材が設置されてはいませんが、住民の希望に応える形で診療開始しており、早速患者さんも訪れています。

その他の宿泊施設や関連の飲食店などもこれからこの場所で順次オープンしていく予定です。



診療所をはじめとするこの関連施設の責任者となるロメル医師と共に、地域を盛り上げていき、確かな医療の提供を常時行なっていきたいと思っています。

これは私たちの計画の中の第一歩であり、これから始まる首都の本院の建設など、多くの事業も控えています。

現地の信頼をより深めながら、この国の医療により貢献したいと思います。

2025年03月

バングラデシュの首都郊外の私たちの診療所では、連日、地域の患者さんたちの診療が続いています。この診療所は私たちの農場の中に建てられており、食事などもその農場から食材は提供されます。

この地域では、診療施設がもともと少なかったため、住民の強いニーズもあり開設されました。

医療支援の活動の一環としても、日本の皆様からの支援もあり、普通には診療費が払えない患者さんであったとしても、低価格での診療を提供。またCTなどの検査が必要な場合でも、首都の病院（CMH ダカ）と連携しています。

これからも、施設の機能も強化していき、よりこの地域の医療に貢献できる施設にしていきたいと思っています。



Burkina Faso

2024年07月

西アフリカのブルキナファソでは、紛争などの影響により食糧難が続いており、今年も私たちは5-6月から農業を開始することを計画していました。しかしながら、今年は7月上旬までほとんど雨が降らず、私たちの農業プロジェクトも開始できなかつたため、今からでは収穫の時期は遠く間に合いません。彼らの食糧の備蓄も限られ、間もなく底をつきます。

住民からも飢餓が深刻化してきており、政府からの食糧配給も、私たちが昨年まで支援した食糧の1/4（おそらく3トン程度）の量しかなく、子供たちの栄養失調も危惧されている事が報告されました。

当初、現地のスタッフも、我々の予算が限られている事も分かっており、私たちの食糧支援に頼るのではなく、農業プロジェクトを頑張って、自分たちの力で今年を乗り切る意志を見せてくれていました。しかし残念ながら天候には恵まれず、再び危機が訪れています。私たちは、人命を守るため、今年も食糧支援を可能な限りで実施する計画を急遽進めています。



ようやく今年の農業が開始されました！今年はまだ雨が降らず、開始がずいぶん遅れていました。豆類などは、これから3ヶ月後に3トンほどの収穫を見込んでいます。

しかしながらテロ等の影響で避難民は増え続けており、食糧難による飢餓や子どもたちの栄養失調も深刻となっています。

そのため、取り急ぎ収穫までの期間の食糧を支援する必要があります。この農業を推進しつつ、現在私たちは緊急食糧支援を計画しています。

2024年08月

西アフリカのブルキナファソでは7月から農業を開始しています。食糧難の中でも今年は雨がなかなか降らず、干ばつにより残念ながら開始が大きく遅れていました。なんとか現在は継続的に雨もあり、順調に作物は育っています。

あと2ヶ月ほどでの収穫を見込んでおり、子どもたちの給食も含めて使われる予定です。しかし今年は干ばつによる農業の遅れから、収穫までの食糧が確保できなかったため、まもなく緊急食糧支援を今年も実施予定です。

厳しい環境の中でも、今年を乗り切るために現地で住民と共に私たちも懸命な努力を続けます。



食糧難が起こっている西アフリカのブルキナファソで、5トンのトウモロコシの食糧支援を実施しました！配布の対象としては785人から1000人規模となり、シングルマザーの家庭や、避難民などを中心に子どもたちに飢餓が生じている家庭が優先されました。このタイミングでの支援は現地にとっては大変重要なものであり、現地では住民や、現地政府を代表して知事からも、この日本からの支援に対して感謝が伝えられました。

また私たちは農業プロジェクトも並行して進めており、収穫までの時間をこの食糧支援で補うことができ、人命を救う結果につながっています。

私たちも日本の皆様の気持ちが乗ったこの支援を、現地で実行できた事を大変嬉しく思います。



2024年10月

西アフリカのブルキナファソで数年間に渡り生じている食糧難に対し、現地で行ってきた農業プロジェクトですが、もうすぐ収穫を迎える事ができます。とうもろこしは3トン以上、豆が3.5トン、ゴマ2トンを見込んでおり、なんと合計8.5から9トンの食糧を数千人に届ける事ができそうです。

残念ながら今年は大豆に関しては、農地の水捌けの問題などから育たず残念でしたが、幸運にも他の作物は順調に育ち、予想以上の収穫でした。



これからこの収穫は、主には地域の子どものための学校の給食としても使われる予定です。

日本の皆様からの支援が、このように今年も確かな結果を結び、命を支える大変重要なものとなっています。そして現地から日本の皆様へ感謝が伝えられました。

私たちからも皆様に、改めて感謝申し上げます。

これからも私たちも、人が人と助け合う平和の構築に貢献し続ける日本の組織として努力して参ります。

2024年11月

西アフリカのブルキナファソでの幼児院での教育も本年も継続されています。ここでも農業プロジェクトで収穫した豆類、とうもろこしなどの作物が、給食として子供たちの栄養強化として提供されます。概ね子供たちの健康は保たれており、毎日の勉強も頑張りながら元気に過ごしています。

この子供たちがしっかり未来にはばたいていけるよう、私たちも教育と栄養強化を提供しつつ、様々な障壁を取り除く努力を続けたいと思います。



2024年12月

西アフリカのブルキナファソの食糧難に対して3年目を迎える農業プロジェクトですが、今年の収穫は合計約10.5トンとなり、これまでで最も豊作となりました！（トウモロコシ約4.6トン、大豆を含む豆類約2.1トンを含みます）

これらは主には地域の学校の給食に提供され、子どもたちの栄養を支えます。

それに加えて、シングルマザーのグループなど、支援が必要な住民グループにも提供される予定です。干ばつや、その後の雨季の洪水もあり、困難は多い年ではありましたが、問題に地道に皆が取り組んだ結果、このような嬉しい結果になりました。

働いた女性たちはこの豊作を喜び、日本の支援に対する感謝が歌われました。

私たちとしても、良い豊作の年となり、現地がこのように心から喜んでもらえる支援が日本から出来たことを嬉しく思います。そして人が人と真に助け合う世の中を強く願わずにはいられません。



Haiti

2024年04月

ハイチの孤児院で食糧支援を新たに行いました！2箇所、約100名の孤児に対し、3ヶ月分を支援しています。ハイチでは、政情不安により危険な状況が続き、公立病院も閉鎖されている状況にあります。

内戦も懸念される事態であり、子どもが病気になったとしても診療に連れていく事そのものがリスクになってしまうため、子どもたちの健康状態をきっちりと管理していく必要があります。

ほとんどの支援団体が撤退する中、この厳しい状況の中でも、皆様のご支援により、今回の支援が実現できている事を大変嬉しくも思います。



2024年07月

中米ハイチの孤児院2カ所において、3歳から13歳のなんらかの体調不良を訴える42名の子どもたちを対象に、検診と治療を行いました。

感染症による発熱、腸内寄生虫、皮膚感染症（白癬）が多く、抗生剤など薬剤も使いながら治療まで行いました。

ハイチでは現在も政情不安、治安悪化が常態化しており、警察と反政府組織との間で銃撃戦が頻発しており、食糧の入手も困難な状態が続いています。今回の検診でも、2名の栄養失調の子どもが見受けられました。

そのため、私たちは引き続き、この2カ所の孤児院に対して食糧支援を行う予定です。



座って待っていて
お利口さんやね☆



中米のハイチで、先日に無料検診と治療を行った2つの孤児院に、食糧支援を行いました。政情不安や治安悪化により、食糧の入手も困難となっており、検診時にチェックしたデータでも栄養失調の子どももあり、タンパク質なども不足しています。栄養が不十分である事も感染症が多い一つの理由とも考えられ、これからも継続できる限り、私たちは子どもたちへの食糧支援を行いたいと思います。

お手伝い
ありがとうございます☆



2024年10月

カリブ海の島国、ハイチの孤児院2カ所に年内としては最後の食糧支援を実施しました。ここで暮らす約100名の子どもたちに、3ヶ月分の穀類等の食糧に加えて、生活必需品などをおくりました。ハイチでは街中の治安の悪化もあり、移動する事も大変危険な状況です。食糧の入手が困難となっており、国際社会からの支援も乏しく、孤児院では悲惨な状況が続いています。

この孤児院でも、本来であれば施設の修理や衛生の改善、教育など、子どもたちにはまだまだ多くの支援が必要です。

残念ながらこの状況では支援継続自体が困難である事は事実ではあります。しかしな

がら、私たちとしては、せめて子どもたちの健康を守るため食糧支援を継続する事だけでも続けていきたいと考えています。



2025年01月



中米のハイチで、2カ所の孤児院に約3ヶ月分の食糧と生活用品の支援を実施しました。いまだに治安が悪化し、政情不安が続いており、ほとんどの支援団体がハイチを去っているため、支援は少なく食糧を得ること自体が困難な状況にあります。

子どもたちが診療を受けることも難しく、また学校に行くための学費も払うことが出来ていない現状にあり、私たちも次回には、可能であれば健診と診療の機会を提供できればと考えています。

今回は搬送車から、子どもたちもみんなで手伝って食糧を孤児院に運んでくれました。

この食糧支援は、このハイチの複雑かつ厳しい環境の中で命を繋ぐために大変重要な支援となっています。孤児院の代表者からも、この日本からの支援に対し、心からの感謝と、日本の新年へ祝福が述べられました。

ハイチは大変支援も困難な情勢ではありますが、これからも出来る限り効果的な支援を模索しながら、子どもたちの未来を守りたいと思います。

Japan

2024年05月

ホテルニューオータニ東京で開催されました、東京紀尾井町ロータリークラブ様の例会で、「途上国支援の現実と未来への挑戦」というテーマで代表の大類が講演(卓話)させていただきました。私たちの活動の紹介や支援実績報告に加え、これからバングラデシュなどで、私たちも期待と夢を持って実現させようとしているいくつかのプロジェクトを紹介させていただき、大変大きな反響をいただきました！

日本発の支援をより具現化するため、日本の皆様のお力、お気持ちを現場に還元し、これからも努力して参ります！



2024年06月

加古川平成ロータリークラブ35周年記念会に、代表の大類が登壇し、これまでの活動に加え、これからより良い未来を創るために、私たちがどのような取り組みを行っているのかを紹介させていただきました。なお、熊本平成ロータリークラブ、中津平成ロータリークラブ合同例会となっております。

また、今回はFuture Code 学生部 (BYCS) の協力もあり、西アフリカのブルキナファソの雇用創出、医療支援の拡大につながる「ハダニシア」ハンドクリームの販売も行い、ご好評いただきました。

講演内容についても、幸いにも大きな反響をいただきました。日本の力で世界の平和にどのように貢献していくか、というテーマを掲げ、これからも皆様のお力を借りながら未来に進んでいきたいと思っております。



兵庫医科大学にて非常勤講師を務める代表 大類から、国際保健や途上国医療についての特別講義が行われました。医学部での講義という事もあり、講義内容も疾患の内容のみならず、医学的な統計学、公衆衛生学も踏まえて、日本とはまた違うグローバルな視点を考えるものとなっております。それに加えて、海外で活動する日本人医師としての意義や、やりがいなども語られました。

また、今回の講義後には、嬉しいことに、多くの学生さんが興味を持って直接質問にも来てくれました。

これから日本の未来を担う医

学生の皆さんにとって、少しでも記憶に残る有益な時間となったのであれば幸いです。

これからも私たちも、日本の学生さんたちへの教育に対しても努力を重ね貢献して参りたいと思っております。これからもどうか皆様には温かなご支援、ご声援をよろしくお願いいたします！



神戸市私立保育園連盟主催の研修会にて、代表の大類が登壇し、世界の途上国の子どもの現状などについて講演を行いました。国際情勢が悪化する中で、西アフリカやハイチなどでは影響も大きく、子どもたちの現状などが説明され、私たちが可能な限り支援を継続する意味も語られました。

講演後にも質疑応答の時間では、会場から数多くのご質問をいただき、反響いただいた事を感謝いたします。

世界の平和のためにも私たちは活動を継続し、貢献して参ります。皆様には引き続きどうか温かなご支援、ご声援をよろしくお願いいたします！



2024年07月

兵庫県立須磨東高等学校で国際理解教育として開催された特別講演会に大類が登壇しました。この講演の前にすでに学生さんたちは、事前学習として私たちが活動をしている国の事や、私たちのプロジェクトについても調べてくれたので、講演内容もより深く理解してもらうため、同じ途上国と言っても土地や文化、経済状況によってまるで状況が違う事なども盛り込まれました。もし、自分がこの国に生まれていたなら、という視点も考えてもらいながら、これからの世界に平和を創っていく意味、さらにはこれからの若い世代の学生さんにこそ必要と思う思考力と考え方についても説明し、次世代に期待を込め、講演を締めくくりました。

学生さんたちにとって、少しでも有意義な時間となったなら私たちも嬉しく思います。

私たちは国際支援をこれまで同様に実行しつつ、日本では学生教育についても、国際理解を深めるため、また国際人の輩出にも努力を続けて参ります。



2024年08月



沖縄の離島の一つである久高島の診療所に、患者搬送のための緊急搬送車両を寄贈しました！これは沖縄首里ロータリークラブ様が主体となり、私たちFutureCodeと共同で行ったものです。

久高島では患者が出て緊急搬送が可能な車両がなく、それに加えて緊急搬送時に心臓マッサージなど医療行為もできないため、緊急医療が困難な状況が続いていました。久高診療所の島医者である鈴木医師らと行政との話し合いが続けられていましたが、様々な理由から今まで解決できなかった現実があり、そこで鈴木医師の知人であった代表の大類に相談があった事からこの支援計画は始

まりました。

命を守るための搬送車両がない現実、人の死に直結するため、迅速な支援が必要と判断しつつ、これは沖縄の問題でもあるため、大類が所属する沖縄首里ロータリークラブ様に協力要請を行ったところ会長はじめ多くの会員さまの賛同と共に、今回の支援の主体となっていただき、一つ一つの問題を解決した結果、これが実現しました。

受納式には南城市長さま、八重瀬町長さま、消防長消防司令長さま、市議会議員さまなど多数ご参加いただき、感謝のお言葉を頂きました。

久高島の皆様からも、緊急時の搬送が可能となった事で大変安心する事ができる、との話や、島医者の鈴木医師からも、今回の車両寄贈の実現は、医療面での恩恵以上に、久高にとって大きな勇気をもたらえた、とのお言葉を頂きました。私たちも、この支援の実現がどれほど大きな意味を持つものかを改めて感じています。

これからも私たちが離島の事情を学びつつ、様々な問題解決に取り組んでいきたいと思っています。



2024年09月

関西学院大学で代表 大類の総合講義が始まりました。3週連続の全3回で行われる予定であり、今回がその初回になります。今回は国際協力の意義、平和構築と構造的暴力、そして極度の貧困について深く学ぶことがテーマの講義でした。私たち Future Code の活動を実例として出しながら、客観的なデータの解釈をし、解説しています。

講義後も学生さんから熱の入った質問があり、こうして反響いただく事を私達も嬉しく思っています。

次回来週は、途上国の現場での情報分析や、プロジェクトの肝となる思考と理論、など、日本で働く上でも役に立つ思考法と方法論などを中心に講義が行われる予定です。

この講義が少しでも学生さんにとって、意味のある時間とできたなら幸いです。関西学院大学での講義第二弾ですが、今回は方法論が中心のもので、様々なシーン、ビジネスでも使える情報収集や分析手法、SWOT や、行動変容を起こすための COM-B などを私たちのプロジェクトの実例と共に紹介しています。私たち Future Code が各国で導入している様々な支援プロジェクトも、こういった分析手法を導入して実施されています。

また今回の講義では、SDGs について、そもそものプログラムの本質の考え方について、また日本での認識のズレなどについても言及しています。

もちろんこれらは決して簡単な内容ではなかったとは思いますが、軽く知っているかどうかだけでも、学生さんそれぞれの将来の仕事にも役に立てる手法でもあり、少しでも参考にしてもらえたなら幸いです。



2024年10月



代表の大類が TEDxKumamoto のステージで、過去の TEDx 登壇者「スター」としてご挨拶させていただきました。今回の登壇者の皆様のトークやパフォーマンスにより、素晴らしい会場の一体感ができたステージでした。

前回の大会の登壇から7年が経ち、その間にも世界は良くも悪くも大きく変化しています。

私たちの活動も当時と比べれば、途上国の医療支援だけでなく、農業やソーシャルビジネス、日本での活動も含めて様々な分野に広がりました。

これからも私達もこの TED の目指す精神にも同じく、価値のある革命的/先進的なアイデアと、なによりも人間的で、人と人が助け合える世界、その実現に寄与できる活動を目指し続けます。

関西学院大学講義、最終回の第三弾を実施しました！今回は一回目、二回目の講義内容を統合したものであり、どのようにして今までの私たちのプロジェクトが過去や現在に作られ、実行されてきたかや、そこには様々な分析法を用いている事などが解説されました。

これらは日本社会の中でも十分に使える手法であり、例え大きなプロジェクトであっても一朝一夕に成り立ったわけではなく、何年もの時間をかけて泥臭く地道に一步步進めた結果である事なども紹介しています。

最後には、これから社会に出る学生さんたちへのメッセージとして「どう自分



と向き合い、何かを始める一歩を踏み出すのか。共感をただ消費せず自分に生かすために、どんな小さな事からでも行動を始める意義とは」なども語られました。

合計 300 分の濃い内容で、大変難しい話もあったかと思いますが、最後まで聞いてくださり、また今回の一連の講義後にはしっかりとノートをとって質問に来てくれた学生さんも複数名おり、嬉しく思います。

これで大学生講義は今年最後となりますが、少しでもこの機会が、未来にはばたく学生さんにとって有益なものとなるならば幸いです。



東京上野ロータリークラブ様で講演をさせていただきました。今回は、会員様ではない方も多く来られるオープン例会という事であり、私たち Future Code の活動の紹介に加えて、日本のロータリークラブさまとの関わりによって行われた重要な支援や、これから日本の皆さまと一緒に創ろうとしている未来の夢なども語られました。

私たちも、希望を持って、皆さんと共に仕事を楽しみながらできる事業の在り方を常に模索していきたいと考えています。

多くのご賛同の声もいただき、重ねて感謝いたします。これからも皆様のお力と共に、組織としてもより物事の本質に迫れるような支援が続けていけるよう、努力いたします。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます！

2024 年 11 月

広島県尾道市 医師会看護専門学校にて、Future Code バングラデシュ支部マネージャーを務めるラーマン真理子 看護師が約 30 名の看護学生を対象に「人々の生活と看護 国際看護～バングラデシュでの支援活動の実際について」というテーマで講義を行いました。

普段、必修科目として勉強している国際看護について学ぶ理由について最初に聞いたところ、学生さんたちは「理由は今まで考えたことがなかった」とのことでした。現代社会では国境を越えて、人、物、情報などが移動し続けていることで、良くも悪くも、今まではなかったものが存在するようになり、今までできなかったことができるようになり、起こらなかったことが起こるようになっていきます。



看護の対象は「人間」であり、その意味は日本に住んでいる日本人だけではなく、看護師の仕事とは全ての人に平等に看護を提供する使命があることが語られます。

時代の変化と共に、私たち一人一人に求められていることも常に変化し続けており、私たちそれぞれが意識と行動を考え続ける努力が必要です。

相手を知るためには、異国を知る必要がある。違いを認めるためには、違いに気づく必要がある。相手の立場に立って物事を考えて行動するためには、生まれ育った環境の違う人々との関わり方を知る必要がある。

こういった事を感じてきた経験を、ラーマン真理子看護師からバングラデシュでの活動の中で起こった事例と共に伝えています。

講義の終わりには、今回の講義で知ったことや、これから努力したいと思えた事等、学生さんから本当に沢山の意見や質問をいただきました。学生さんたちが国際看護を学ぶ理由をこれからも考え、それを将来に生かしてもらおうきっかけとなれたのであれば、私たちも大変嬉しく思います。

2024年12月

熊本で先日開催されました病院マーケティングサミット JAPAN2024 の社会造形シンポジウムに、代表の大類がパネリストとして登壇させていただきました！

このシンポジウムでは、日本のコミュニティや産業が過去どういふものであったのか、そして今、何が問題であり何が大きく変わって来たのか、などが話し合われました。

このサミット全体を貫くテーマとしても、特に日本では医療機関やコミュニティが地域にとって、どのような存在になるべきか重要であり、正に今、変化しなければならぬ局面なのだと感じています。

バングラデシュの医療においても変化は急速に進んでおり、より良い医療の発展に貢献できるよう、私たちも思考と努力を続けたいと思います。



帝国ホテル東京で行われました、東京中央ロータリークラブ様の例会で、代表の大類が講演を行いました。今回の内容としては通常の活動内容と、先日にバングラデシュ政府と合意し、これから建設予定の総合病院について、どのような機能を持つ予定なのかなどが語られました。

この新病院では、貧困層などに対しても診療を行うことができるように新たな制度を導入するパイロットプロジェクトや、ドローンの活用なども盛り込まれており、その他にも日本の病院にもない、バングラデシュの新たなコミュニティの開発形成にも役立てるように工夫されています。

我々にとってもバングラデシュにとっても、これは初めての挑戦でもあります。この先にも様々な困難もあるはずですが、日本の支援をしっかりと表現できるシンボルとなれるよう、スタッフ一丸となりしっかりと前に進めていきたいと思っています。

2025年02月

先日開催されたトークライブ「I THINK」に代表の大類が登壇しました。衆議院議員の井坂さん、レジェンドプロレスラーのウルティモ・ドラゴンさん、雑誌 THE TANPENS 編集長のファンシーコウさんと、神戸を代表する論者たちと共に「世界から見た神戸、神戸から見た世界」をテーマに2時間半に及ぶ熱い話が繰り広げられました。

なぜ政治家になったのか、なぜプロレスラーになったのか、なぜ舞台監督をしていたのか、なぜ国際支援の道に進んだのか、などなど、個性的な皆様の人生の岐路と選択の話に加えて、なぜ辛い事があってもそれぞれが長年続ける事ができるのか、などもあり、来場くださった皆様からも「大変おもしろかった！」とご好評頂いております。

神戸の未来像についても井坂議員から「それぞれのアイデアと挑戦」を推進する街にしていきたい、との提言もあり、それが可能な自由な空気を、それぞれが努力して創り出していきたいと私たちも感じています。

ファンシーコウさんからも、トークライブを神戸の文化にしていきたいとの意見もあり、これからは機会があればこのようなトークライブの形でも、皆さんと共に、この街で様々な人がそれぞれ考える意見「I THINK」をちゃんと前向きに議論できる文化を創る一助になればと考えております。

ご来場頂きました皆様、本当にありがとうございました！





2月8日から9日は梅田スカイビルで、国際協力団体が集まるワンワールドフェスティバルに出展しました！

関西のさまざまな国際協力団体が来ており、それぞれの活動が紹介されています。幅広く個性的な活動を知ることでも楽しめます。

BYCS（学生部）のみんなも当団体の活動を、来場者に説明したり、他団体のクイズ大会に参加したりとイベントを楽しみました。

先日、高槻市の愛仁会看護助産専門学校にて、病院マーケティングサミット JAPAN さまによる第2回病院ファンづくり甲子園決勝大会が開催され、代表の大類が審査員としてご招待頂き、参加しています。

このイベントではそれぞれ全国の病院が新たに挑戦的、個性的な取り組みなどを行なっている事業について、プレゼンテーションが行われ、各地域の予選を一位通過した全国の病院の決勝大会となりました。

それぞれの病院のある地域や、役割など様々な状況の中で、農業、教育、地域交流、またゆるキャラを含めた広報など、様々な8つのプレゼンテーションが行われました。

私たちとしても高槻の愛仁会高槻病院の皆様や、全国の個性的な病院の関係者の方々、企業の方々との交流となり、大盛況のイベントでありました。

私たちの活動についても知っていただく場となり、これからも双方向の交流、協力ができればと考えております。

代表理事の竹田先生を始め、各関係者の皆様、ありがとうございました。これからの「日本の医療の力」をより良いものに改革していく一助となれば幸いです。



若者に対するリーダーシップ研修である、第5回 RYLA が沖縄で開催され、最終日の24日の講演に代表の大類が登壇しました。今回の研修のメインテーマは、平和。

東京、沖縄、中国、韓国等からの受講生、そしてサポートのための関係者合わせて約50名が参加され、この最終日まで4日間にわたって早朝からしっかりと研修が行われました。

今回の講演の内容では、平和とはそもそもなんなのか、そして私たちの活動はどのように作られているのか、という主題で進められ、思考方法、分析方法なども紹介。そして講演内で課題が出題され、その分析方法を用いて、チームの思考力を試すワークショップも行われました。そのグループの発表でも、思考力、想像力も豊かな分析も多々あり、受講生の皆さんのこの短期間での成長も感じる事となりました。

今回の研修が若い世代の皆様にとって、少しでも有益なものとなったなら大変嬉しく思います。

私たちもまた、しっかりと活動を続け、確かな結果と未来、そして平和に貢献できるよう、努力してまいりますので、これからもどうぞよろしく願いいたします！

半年ほど前に、沖縄首里ロータリークラブさまと共に寄贈した多目的緊急搬送車両の運用状況や、その他の問題のフォローアップのため、沖縄の離島、久高島を訪問し、島医師の鈴木医師とミーティングを行いました。

この半年で5回ほどの出動があり、心不全、喘息発作、骨盤骨折などの搬送に貢献したとの事であり、なにより搬送できる車両がある事で、島民の安心感につながっている、と嬉しい報告がありました。

その他にも、久高島に限る事だけではなく、離島であるが故の出産などの問題などもあり、これからも一つ一つの問題に可能な限り解決に向けて尽力していきたいと思います。



2025年03月



熊本城東ロータリークラブ様の会合で、代表の大類が講演をさせていただきました！これまでの活動の報告を中心として、最新の取り組みや、私たちが行う世界での平和構築についても紹介させていただきました。

熊本では久々の講演であり、以前に講演に来ていただいた方々もおられ、「さらに感動した」「あの時よりもさらに進化している」との感想もいただき、嬉しく感じています。



2025年は私たちにとって、様々なプロジェクトが新たに動き出す予定です。日本の力で、今まで以上に世界の平和に貢献していく努力を続けます。

2024年07月



ドラゴンゲートのワールド記念ホール大会で、代表の大類がリングに登壇し、活動報告のスピーチを行いました！

ドラゴンゲートさまの募金活動により、多くの支援をいただいております。昨年にも西アフリカのブルキナファソや中米ハイチの孤児院で食糧支援を実現することができ、多くの命を救う活動に繋がりました。

改めて選手の皆様、スタッフの皆様はじめ、ご来場の皆様に心より感謝を申し上げます。

そして今回、食糧難のブルキ

ナファソに雨が降らず、干ばつで更なる飢餓が予想されています。改めて、日本の心、日本の人道支援の力を現地に届けるべく活動を続けますので、どうかご協力をお願いいたします。

また会場で販売しておりましたハダニシア ハンドクリームも支援の一助となり、たくさんご購入頂き、感謝いたします。

私たちは日本の皆様のお力をお借りし、命を救う活動を真摯に続けてまいります。どうか温かなご支援、ご声援をこれからもよろしくお願いいたします！



2024年08月



ドラゴンゲート サンボーホール大会、ゲートオブミヤネにて活動報告スピーチを行いました。ハダニシア ハンドクリームの販売に加えて、いつも選手スタッフの皆様のご協力や、ご来場の皆様からの募金もあり、西アフリカのブルキナファソでの食糧支援や農業プロジェクトを進める大きな力となっています。

会場の皆様からも拍手を頂き、大変嬉しく思います。これからも真摯に活動を行って参ります。

2024年12月

神戸サンボーホールで開催されましたドラゴンゲート年内最終戦にて、いつもハンドクリーム ハダニシアのご購入や募金などをしてくださるご来場の皆様に2024年の活動報告を行いました！

本年は、沖縄の離島の医療支援活動が始まり、アフリカのブルキナファソでは農業プロジェクトで10トンを超える収穫を得ることができ、さらにバングラデシュでは政府との合意により新病院の建設が決まるなど、ドラゴンゲートご来場の皆様や、ドラゴンゲートスタッフの方々の協力もあり、大きな希望が持てる動きが出ています。

2025年はこれらの結果をバネにしつつ、より効果的に世界に貢献できる年となるよう努力したいと思います！

日本の皆様には本年も大変お世話になりました。感謝申し上げます。来年からも引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます！



Media

2024年07月

ロータリークラブ会員誌「ロータリーの友」6月号に代表の大類の山形講演を掲載していただきました。この講演では、主に20代の社会人400名に対して、私たちの活動紹介に加え、途上国でいかに事業を成り立たせ、雇用を生み出し、日本での支援活動を安定させていくか、という点や、これからの未来を創っていくにあたっての挑戦的な事業なども紹介されました。

これからも私たちも、地道な支援活動を続けながらも、皆に期待されるようなプロジェクトも両輪として行っていきたいと考えております。

掲載いただき、ありがとうございました！日本の皆様にはこれからもどうかご支援、ご声援をよろしくお願い申し上げます！



2024年12月



12月25日より、代表の大類の著書「パンゲアの鍵」が出版されることになりました。この本ではFuture Codeの立ち上げから、この15年間の活動や、そこにあった様々な現場での困難や経験、それに打ち勝つべく一歩ずつ進んだ記録、そして現場から学んだ人間らしさとは何か、というテーマが書かれています。

また、タイトルの「パンゲア」とは、現在の諸大陸がひとつであったときの超大陸の名前であり、この大陸が徐々に分裂して現在の世界地図が形成されたと言われています。

Future Code のロゴの地図もそのパンゲアの想像図であり、世界はかつて一つであり、人間は助け合うものだという精神が示されたものであります。

もしご興味ある方はネットでも既に販売しておりますので、ぜひ一度手に取ってください！

(本書の売り上げの一部は現地の活動の支援として使われます)

2025年03月

沖縄の情報誌、「たのしま 沖縄本島」に Future Code の活動情報を掲載していただきました！

皆さまにより広く、まず私たちの活動を知っていただければとの企業様の思いとご支援から、この掲載が実現し、大変嬉しく思います。

途上国の現実や、私たちの活動に興味を持っていただくためにも、私たちも日本、そして世界での社会貢献に努力を続けてまいります。

この情報誌は、沖縄と東京で手に取っていただけますし、ネットでもご覧いただけます。



以上、Facebook より

拝啓 盛夏の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃より、認定 NPO 法人 Future Code の活動をご理解くださり、またご声援、貴重なご寄附を賜り、スタッフ一同、心より感謝申し上げます。

2024 年度の活動報告書が完成しましたので、ぜひ皆様にご覧いただきたく、送らせていただきました。

皆様からいただいたご寄附はハイチ、バングラデシュ、ブルキナファソ、日本の活動のために大切かつ適切に使わせていただきました。

私たち Future Code の活動は皆様からのご寄附によって支えられております。

何卒、今後とも Future Code のサポーター、応援団として暖かいご支援ご声援を賜りますようお願い申し上げます。

皆様からのメッセージ、お手紙等励みになっております。

クレジットカードの変更（クレジットカードの期限）や、住所変更などはホームページのお問い合わせよりお知らせください。

これからいっそう暑さは厳しくなります。くれぐれもご自愛ください。

略儀ながら書中を持ってお礼とご報告とさせていただきます。

敬具

認定 NPO 法人 Future Code 理事長 大類隼人
スタッフ一同

2024年度 Future Code BYCS(学生部の活動)

今年度、BYCS は設立からの時間の経過とともに徐々に薄れてきた活動の意義や目的意識を、改めて見つめ直すことに重点を置いて活動を行いました。

私たちの原点である「支援地との架け橋となり、笑顔を届ける」という活動意義に立ち返り、2019年より展開している「hadanishea(ハダニシア)」ハンドクリーム事業の拡大に努めました。加えて、バングラデシュの特産品であるジュートを活用した新たな商品企画にも取り組み、これまでにない分野への挑戦を通して、今後の活動の多様化を図りました。

hadanishea ハンドクリームは、西アフリカ・ブルキナファソ産のシアバターを使用して製造されたもので、その売上利益は、Future Code が発展途上国において行う医療支援や食糧支援などに活用されています。また、シアバターの生産過程では現地の人々を雇用しており、彼らにとって貴重な現金収入の機会を提供しています。

目次

- ・対面販売
- ・法人営業の戦略構築
- ・広報活動
- ・ハダニシベアアのグッズ化
- ・ジュートの商品企画開始

対面販売

学生部 BYCS では、神戸や大阪を中心に開催されている国際協力やアフリカに関連する各種イベントへ出展し、BYCS および hadanishea の活動を広くご紹介する機会を設けています。これらのイベントを通じて、国際協力の意義やアフリカとのつながりについて多くの方々に関心をお持ちいただき、活動の認知拡大と共感の醸成に努めています。



(写真右:ワンワールドフェスティバルにて販売する様子)

写真左:松下記念病院で開催されたわくわくフェスタにて販売する様子)また、他団体や出展者の方々との交流を通じて、新たな視点を学ぶとともに、今後の共同企画や連携の可能性について検討するきっかけともなっています。

各イベントでは、来場されるお客様に適切に対応できるよう、事前に「対面販売の実践会」を実施しております。この実践会では、メンバーがロールプレイ形式でお客様役・スタッフ役に分かれ、BYCS の活動や hadanishea の製品について分かりやすく、丁寧に伝える練習を行っています。実践会の運営にあたっては、先輩メンバーのご協力も得ながら、より効果的な伝え方や対応方法について議論・改善を重ねています。

さらに、イベント終了後もお客様に活動にご興味を持っていただけるよう、持ち運びやすく印象に残るポストカードを作成・配布しています。



(写真右: Africa with Local のため対面実践販売会をする様子
左: ワンワールドフェスティバルにて配布したポスト)

法人営業の戦略構築

短期間で人員コストをかけて高い利益を得ることが可能な対面販売に対し、法人営業は、少ない人員コストで長期的かつ安定した利益を生み出す手段として、BYCS では重要な戦略の一つとして位置づけています。

BYCS の法人営業では、①新規店舗の開拓と、②既存店舗との関係性の強化の 2 点に重点を置き、活動を展開しています。最終的な目標は、売上の飛躍的な拡大です。その達成に向け、目標から逆算した緻密な戦略とスケジュールを策定し、現在まさに実行段階に入っています。

新規店舗開拓では、BYCS が独自に作成した評価基準をもとに、「hadanishea(ハダニシア)」との親和性が高いと考えられる店舗を選定し、実際に現地を訪れるなど、着実にアプローチの準備を進めています。

一方、既存店舗との関係強化については、各取扱店舗が抱える課題を 2025 年 6 月以降にヒアリングし、その内容を消費者の購買心理プロセスと照らし合わせて分析を行う予定です。この分析結果を活かし、より効果的な販売促進施策の立案と実行を計画しています。

広報活動

広報活動では、Instagram を中心とした SNS の運営や、広告・販促物のデザインを通じて、支援者の皆さまや新規のお客様に向けて、BYCS の活動や hadanishea の魅力を発信しております。

Instagram においては、以下の 2 つのアカウントを運営しております。BYCS 公式アカウントでは学生メンバーの紹介、対面販売の様子、日頃の活動内容などを掲載し、団体の雰囲気や活動のリアルを感じていただけるよう心がけております。hadanishea 公式アカウントではシアバターハンドクリームの商品情報や開発背景、購入がどのように支援につながるかといったストーリーを中心に発信しています。

現在、これら 2 つのアカウントをより明確に差別化し、それぞれの役割を活かした情報発信ができるよう、投稿内容や運用方針の工夫を進めております。加えて、今後は Facebook での情報発信も再開する予定です。

- Instagram
 - hadanishea アカウント
 - [hadanisheaInstagram](#)
 - BYCS アカウント
 - [BYCSInstagram](#)
- Facebook
 - BYCS アカウント
 - [BYCSFacebook](#)

【hadanishea6 周年記念の取り組み】

支援者の皆さまの温かいご協力のもと、hadanishea は 2024 年 3 月 14 日に 6 周年を迎えることができました。日頃よりご支援くださる皆さまへの感謝の気持ちをお伝えるため、メンバー間で企画を検討し、Instagram にてライブ配信を実施いたしました。

このライブ配信は、支援者の皆さまや関係者の方々に感謝の気持ちを直接お届けするとともに、私たちの活動をより身近に感じていただくことを目的としたもので、BYCSにとって初めての試みとなりました。配信では、活動への想いや日頃の様子をお伝えし、視聴者の方々とリアルタイムで交流することができました。新たな形でのコミュニケーションを通じて、より深いつながりを築く可能性を感じることができた貴重な経験となりました。今後も、SNSを活用した発信や交流の機会をさらに充実させ、より多くの方に活動への共感を広げていけるよう努めてまいります。

【Poco'ce 掲載】

ライフスタイル情報誌「Poco'ce(ポコチェ)」2024年9月号にて hadanishea をご紹介いただきました([Poco'ce\(ポコチェ\) - 2024年9月号](#) 11ページ掲載)。

Poco'ce は、東京都内を中心に配布されている、30代の働く女性を主な読者層とするフリーマガジンで、多くの読者から信頼を集めているメディアです。今回は、雑誌本誌だけでなく、公式ホームページにも紹介記事を掲載していただき、より幅広い層の方々に hadanishea の魅力を知っていただける機会となりました。

これまで主に関西圏で活動を展開してまいりましたが、今回の掲載を通じて、関東圏にお住まいの方々にも私たちの取り組みを知っていただくきっかけとなり、今後の活動の広がりにもつながりました。

【クボタ・毎日地球未来賞】

未来の子どもたちに良好な環境を残すため、「食料」「水」「環境」の分野で、国内外の問題解決のために活動する市民団体や、小中高生・大学生など若い人たちの活動を応援する「クボタ・毎日地球未来賞」にエントリーしました。

エントリーにあたっては、活動内容の振り返りや資料作成を通して、最新の情報へアップデートを行うとともに、BYCSの取り組み内容が事実と乖離していないかを丁寧に確認する良い機会となりました。

さらに、エントリーの準備を通じて、先輩メンバーと現役メンバーが連携し合う場面が多く生まれ、縦のつながりをより強固にすることができた点も、大きな成果の一つです。加えて、今後のエントリーや広報活動に向けて、応募に際して気をつけるべき点や改善すべき課題も多く見つけ、学びの多い経験となりました。

ハダニシバアーのグッズ化

昨年度より準備を進めていた「ハダニシバアー」ステッカーのグッズ化が、このたび実現いたしました。

「ハダニシバアー」は、インフルエンサー・神戸人様のご協力のもと制作された、hadanishea(ハダニシア)の公式キャラクターです。今回のグッズ化は、プロレス団体であるドラゴンゲート様とのコラボレーションによるステッカー3種の展開という形で実現しました。

これらのステッカーは、ドラゴンゲート様のイベント等で hadanishea ハンドクリームを販売する際に、お客様により hadanishea を身近に感じていただけるよう企画・制作されたものです。価格は1枚100円で販売しており、売上から印刷費および神戸人様への制作依頼費用を差し引いた利益は、全て支援活動に充てられます。

キャラクターの親しみやすさを通じて、支援の輪がより多くの方々へ広がることを期待しています。



コラボフラッグを持ったもの



フラッグを背景としたもの



カンフーマスターズ

*プロレスチームの一つ

ジュートの商品企画開始

ジュートは、バングラデシュを代表する特産品であり、耐久性や吸湿性に優れるといった特徴を持つ天然素材です。BYCSでは、この素材の特性を活かした製品を新たに企画し、現地で製造した商品を販売することで、バングラデシュへの支援のさらなる拡大を目指しています。

現在は、第一弾としてジュートバッグのデザイン案を作成し、バングラデシュにてサンプル製作を進めている段階です。今後は、完成したサンプルをもとに改良点の検討を行いながら、市場調査や販売チャネルの開拓など、具体的な販売に向けた準備を進めてまいります。

また、ジュートバッグに加えて、ジュートの特性を活かしたラグマットや水筒ケース、ポーチなど、幅広い製品展開についてもチーム内で積極的にアイデアを出し合いながら、可能性を模索しています。